



入所申し込みと 出欠連絡のICT化開始

これまで入所申し込みは、申請用紙に記入し、施設まで持参し、指導員に渡す方式でした。市連協や指導員は、申し込みのたびに子どもたちから指導員の目が離れ、危険でもあるし保育の継続性に支障をきたす。申し込みは行政が直接責任を持つよう、10年以上にわたり、粘り強く要望を続けてきました。これに対して市は、保護者に施設を見てもらうことが大切と主張し、要望を受け入れませんでした。

すでにご承知のように、来年度入所の申し込み手続きから、ICTを活用したシステムを導入する形態で、私たちの要望が実ることとなりました。

合わせて、昨年春から取り組んできた署名が実り、出欠連絡もスマホを活用してできるようになります。昨年秋から18のクラブでモデル事業が開始されました。

署名で実現させた主なもの

1963年に創立された市連協は、創立当初から署名活動に取り組み、今日の放課後児童クラブ事業を作り上げてきました。

小学校区ごとに放課後児童クラブ設置

市連協の最初の取り組みは、小学校ごとの放課後児童クラブ設置を求める署名活動でした。3000筆を集約し、小学校区ごとの設置が市の基本方針となりました。小学校区ごとにあることは、全国的には当たり前のことではありません。

施設にエアコンを設置

いまあるエアコンは、もともとは保護者会が要望し続け、市が「保護者会が自分でつけるなら認める」ところまで前進させ、保護者がお金を出し合ったりフリーマーケットをしたりして設置したものです。

開所時間の延長

20年ほど前、放課後児童クラブが閉まるのは午後5時。夏休みなどの開始は9時でした。2008年に署名が実り、夕方は6時30分までに。夏休みの開始時間はその後8時30分に、2018年からは、申請すれば年額2000円で8時から利用可能となっています。

2026年度、小学校給食費は無料になります

1月5日、市連協も参加する「ひろしまの子どもを守る実行委員会」として、給食無償化などを求める「要望書」を提出、教育委員会健康教育課と懇談しました。国からの給食費支援金が決まったことを受けたものです。

安定した財源で

広島市の小学校給食の単価は309円。保護者からは250円徴収しています。不足する59円は、国の物価対策を目的とする「臨時交付金」でまかなっています。このたび国から支援金が単価278円分出るようになりましたが、まだ31円不足します。

市は、不足分31円について「保護者負担のあり方について検討する」とし、無償化には踏み込まない姿勢を示していました。

「要望書」では、全国580自治体がすでに小中学校の無償化を実現していること、恒久的な取り組みにするために31円は市の財政から支出するよう求めました。

市は31円を引き続き「臨時交付金」でまかなうとし、当面2026年度は、小学校給食費は無料とすることができました。再有料化の火種は残ります。